

輪換畑における有望な新規導入作物ゴマ「ごまぞう」の栽培法		
[要約] 有望作物のゴマ品種「ごまぞう」は、真瀬金より収量、耐倒伏性に優れている。輪換畑における栽培法は基肥窒素量1.0kg/a、畦幅80cmである。		
農業総合センター農業研究所	成果 区分	技術参考

1．背景・ねらい

茨城県において、輪換畑の大豆、麦類は本作として位置づけられ、本県においても主要作物として推進されているが、地域により収量、品質が不安定となっている。そのため、水田地帯の複合経営を今後とも拡大していくために、輪換畑での栽培適性の高い新規導入作物についてその栽培法を明らかにしようとした。

2．成果の内容・特徴

- 1) ゴマ品種「ごまぞう」は、「真瀬金」と比較して、分枝数、さく数が多く、耐倒伏性および収量性に優れている。(表1)。
- 2) 基肥窒素量は、「ごまぞう」、「真瀬金」両品種とも、1.0kg/aが0.5kg/aより多収である(図1)。
- 2) 畦幅は、慣行栽培の40～60cmから80cmに広げることによって、倒伏程度はやや大きくなるものの、子実収量は増加する(図2)。
- 4) 中耕培土は、ゴマの倒伏程度を軽減できる(図3)。

3．成果の活用面・留意点

- 1) 本試験は、県南地域、中粗粒グライ土での試験結果である。
- 2) 発芽直後は湿害に弱いので、明きょを設置するなど、排水対策を徹底する。
- 3) 目標収量である12kg/aを達成するためには、圃場の地下水位を40cm以下に保つ必要がある。
- 4) 成果の内容以外の耕種概要は、畑地におけるゴマの栽培と同様である。
- 5) 連作をすると生育が悪くなるため、1年ごとに圃場を変更する。
- 6) 対象薬剤がないため、病害虫の発生には注意する。害虫の発生が見られたら速やかに手取りでの防除が必要である。

4. 具体的データ

表1 ごまぞうの生育・収量(H17)

品種名	成熟期 (月日)	倒伏程度 (0-5)	草丈 (cm)	最下着さく 高(cm)	分枝数 本/m ²	主茎さく数 さく/株	分枝さく数 さく/株	総さく数 さく/m ²	子実重 (kg/a)
ごまぞう	9.13	2.0	149	55.4	37.9	56.8	79.8	1138	12.5
真瀬金(対)	9.06	3.5	144	36.2	7.9	102.5	11.1	947	10.9

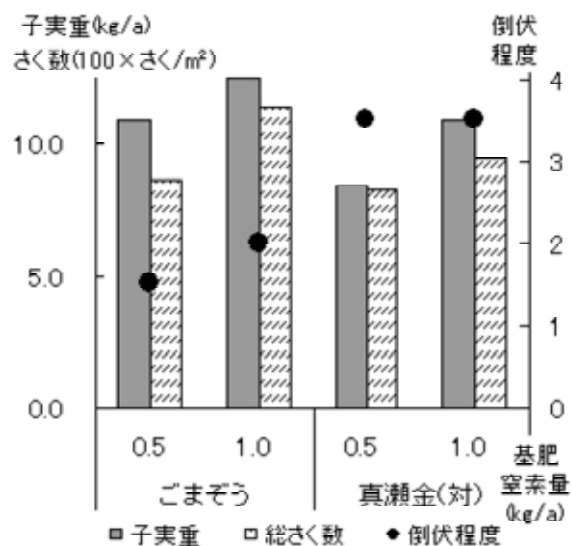


図1 基肥窒素量とゴマの収量(H17)

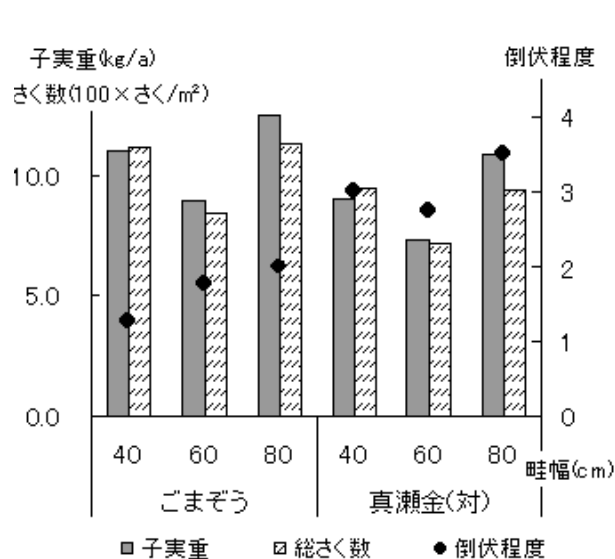


図2 畦幅とゴマの収量(H17)

耕種概要

播種期：6月6日

施肥量：N : P₂O₅ : K₂O = 0.5 : 0.5 : 0.5、1.0 : 1.0 : 1.0 (kg/a)

畦幅：40、60、80cm、株間：15cm

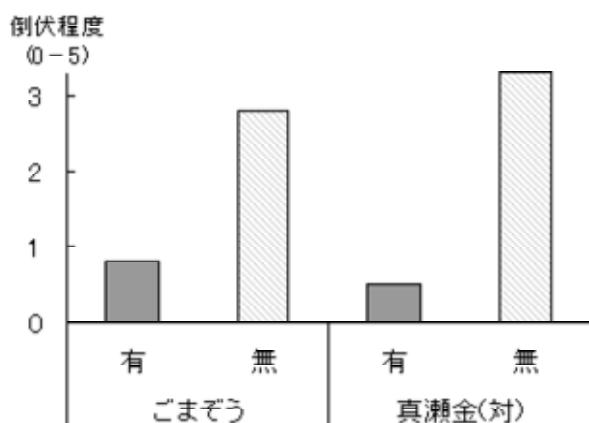


図3 中耕培土が倒伏程度に及ぼす影響(H18)

耕種概要

播種期：6月22日、移植期：7月7日

施肥量：N : P₂O₅ : K₂O = 1.0 : 1.0 : 1.0 (kg/a)

畦幅：80cm、株間：15cm

中耕培土：8月16日

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

転換畑における新規導入作物の選定とブロックリーの新栽培技術の確立・平成16～平成18年度・水田利用研究室